

風景を切り取る② 一広がる外来種一

Mimosa Pigra はメコン河流域一帯に広がっている。川岸を覆う旺盛な繁殖力が護岸のために導入されたが、本来の植生から在来種を駆逐している。河岸の植生は、水没して魚の住処になるのだが、人の生活にも重大な影響がある。鋭い刺は危険で「牛ですら近寄らない」と人々は嘆く。乾季に火を入れると次の雨季に益々繁殖する。人力での駆除は非常に難しい。(タイ・ムン川で 撮影2005年)



編集後記

物事が劇的に代わるとき、中に身を置いているとその変化はあまり実感できないものかもしれない。多分、後で振り返ったときにそれが分岐点だったり、何かの転換期であったのが分かるのではないだろうか。政権交代によって、「聖域」とされてきた政府開発援助（ODA）も見直しの俎上に上がった。NGOが発言するスペースが今まで広がったとはいえ、それが将来のODAにどう影響するのかは、まだ分からない。一つだけ確かなのは、声を上げなければ何も起きない、ということだろう。メコン・ウォッチはこの間、他団体と協力して様々な提言を行うと同時に、セミナーで一般の方に情報を伝えてきた。その成果を、今回のフォーラム Mekongにも反映させている。ささやかな試みの積み重ねではあるが、何もしなければ何も起きない、と肝に銘じていきたい。

また、本号は2009年12月発行予定でありました。再び大幅な遅れが生じていること、読者の皆様にお詫び申し上げます。